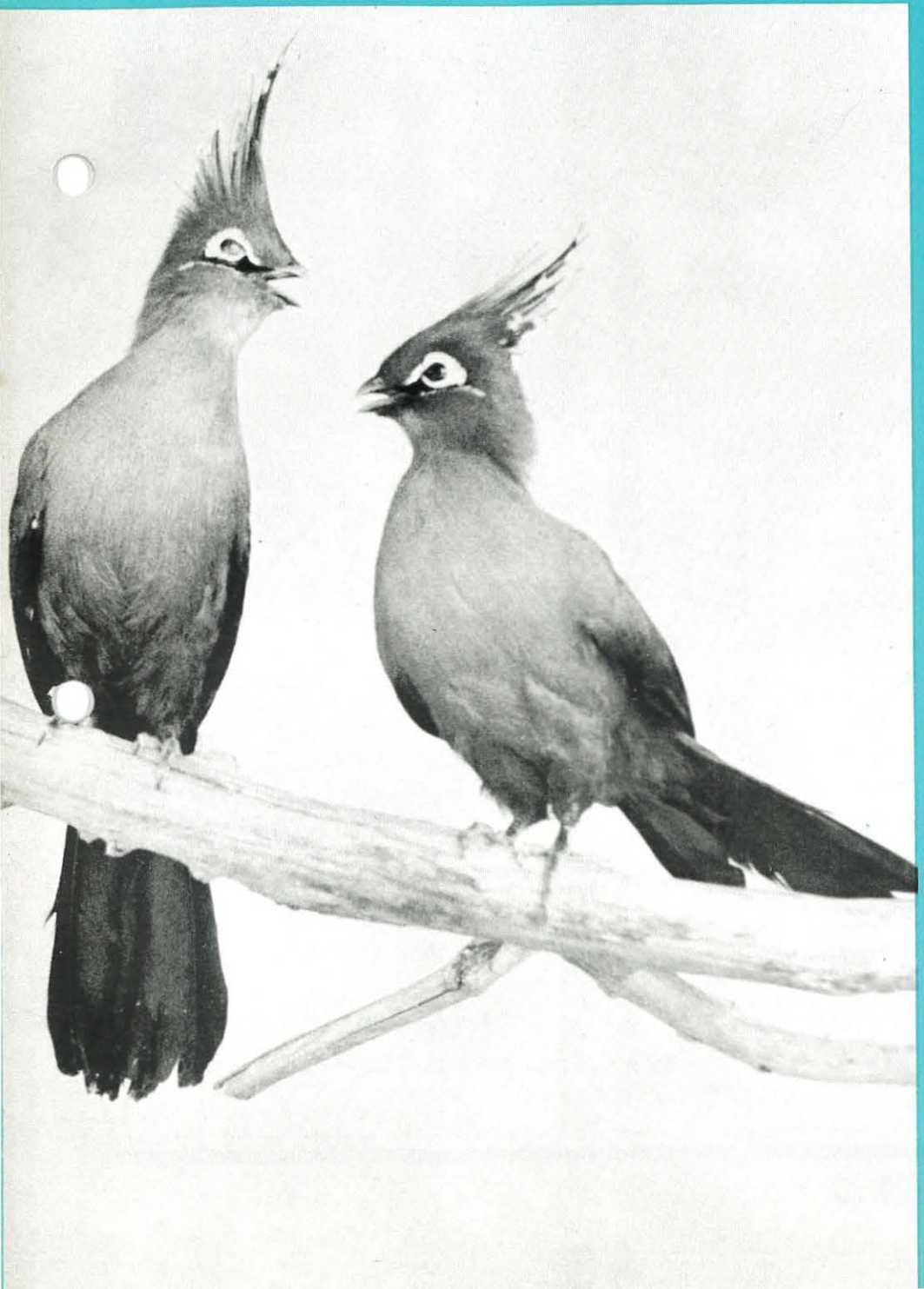
なきごえ



1974

9

大　阪　市
天王寺動物園協会

動物と私

伊賀正門

私が自然に興味をむける様になったのは、小学校の五年生のとき。御他聞にもれず、学校の夏休みの昆虫標本で少し御年輩の方なら一度は経験された事と思います。その頃、すぐ年上の兄が昆虫を集めており、夏休みに岐阜県の〝美濃松山〟の親戚に行った時、初めて珍品、オオクワガタ、をつかまえ、子供心に嬉しくてたまらず小踊りしたのを今もありありと思い出す事ができます。又、その時初めて〝モンキアゲハ〟を見つけ、二人で苦心惨憺の末、綱にする事が出来たのも楽しい思い出の一つです。

そんなことで、それ以来、虫一途に中学時代を過ごし、一時は、昆虫学者にと…、熱を入れたのですが、趣味は趣味、趣味で飯を食うのは邪道と、父のすすめる医者をきらって、歯科医になったのも、往診もないし少しでも暇のあるであろう歯科医の方が有利と素人判断したのが一生の誤りで、今では、朝早くから、夜遅くまで患者患者にせめられ、仲々に旅行に出る暇もない毎日ですが、〝三つ子の魂百まで〟とやら、趣味の窓口は拡がる一方で、動物全般への興味を忘れることが出来ず、動物切手や、動物図案の本票マッチ（明治、大正時代のマッチは動物の図案のものが多く、随分輸出されていたと言う）等の蒐集、動物園へは、林園長さんの時代より、代々心安くさせてもらったものです。

戦後、いつの頃からか、貝の蒐集にとりつかれ、やり出すと、ストップのきかなくなる性質なのか、生まれついての収集癖なのか、暇を無理につくっては、近在の海へ、〝磯こじき〟、ひげを生やした初老の男が、小さな貝を拾っては、ルーペでのぞきよろこんでいる様子は傍から見れば、とても正気の沙汰とは、思われぬかも知れないが、本人はいたって、真面目で、おかげさまで、子供の頃弱かった身体も、人一倍元気で、毎日の診療に従事しています。

考えて見れば、この様な趣味があればこそ日頃の疲れも忘れて、自然にひたることが出来るのを喜んでいるのですが、近頃は海の汚染度も強く、だんだんと遠出をしなければ、思うものも採れず、今では日本近海でも、百米の深さでも廃油ボールや、ビニールで汚され、だんだんと個体数を減じているものが多くなっています。

又、棲息地の極められた陸産貝や昆虫の一部では、已に山林の伐採、農薬、開発造成のため、すでに滅びた種類も見られ、我々の子供の時代には、思いもしなかったことが…と情ないことです。

最後に紙面をおかりして中川園長さんにお願いしたい事を一つかかせていただきます。

排気ガスと騒音になやまされる大阪に、本当の自然動物園を…

かねてからニューヨークのプロンクス動物園のライラ、アチソン、ウォーレス鳥獣園の記事をよみ、その規模と発想の豊かさに心をうたれ、うらやましく思っていたのですが、大阪にも是非、大大阪の面目にかけて、それ以上のものをつくっていただきたい。

園内に入ると南方密林、或はアフリカサバンナ等の自然の中で一所謂人間が鳥、動物、昆虫と一体になれるような、豊かな本当のオアシスの中で一ゆっくり一日を過ごせるような動物園を実現していただきたい。

これは、私の夢かもしれませんが、考えただけでも楽しくなるような動物園を是非!!

〝注〟

プロンクス動物園の中に鳥獣園のできたのは、1972年で、11年の年月と400万ドルの巨費をかけて完成した世界一の鳥獣園で、自然を愛する人々のつくった鳥の楽園であり、数百種の鳥が、放ちがいにされ自由に飛びかい、訪れる人々を楽しませていると云うことです。その設備は、完璧なもので、適度の温度、湿度をコントロールし国内の植物は繁茂し、鳥はその中で造巣、繁殖していると云われている。

（開業・歯科医）

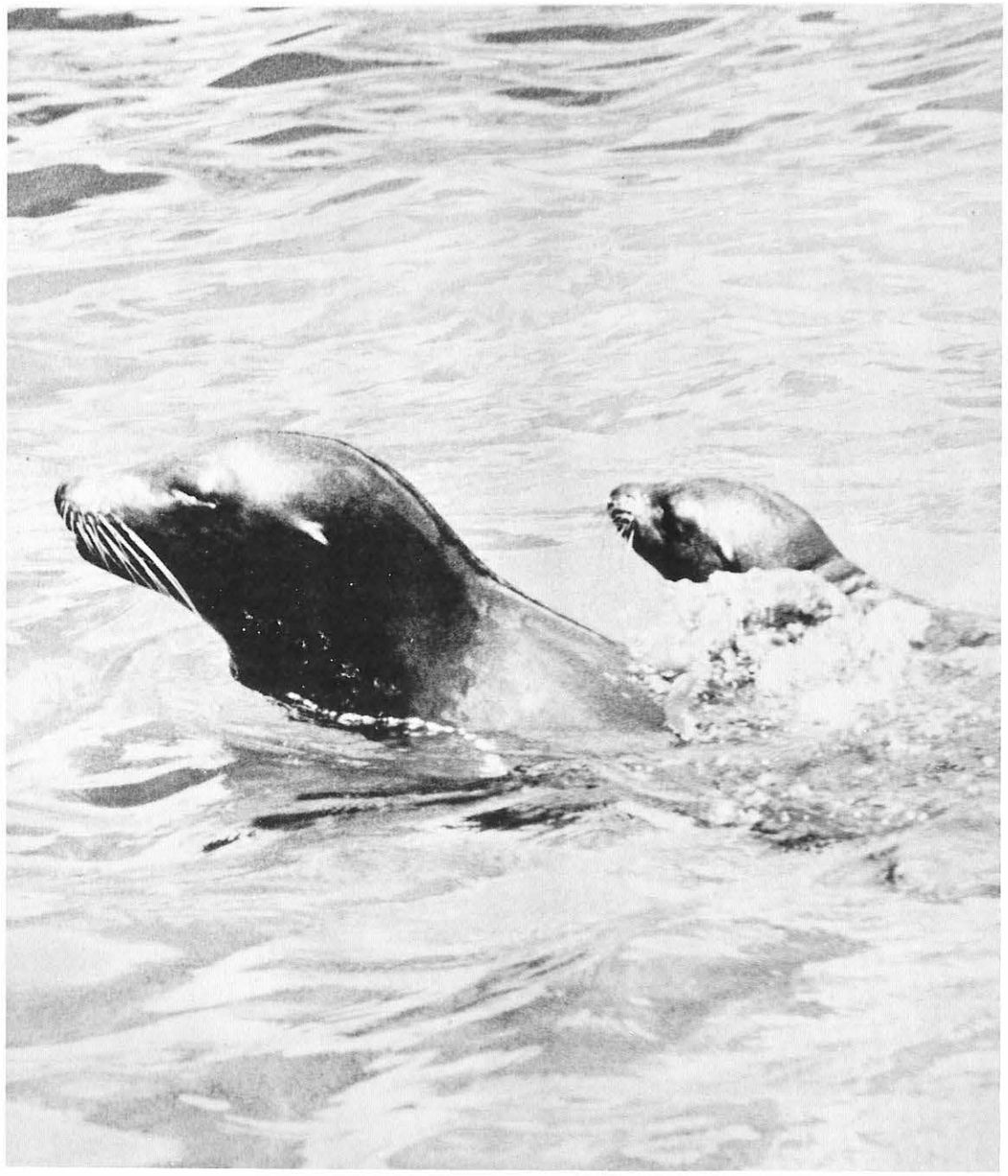
なきごえ9月号もくじ

動物と私……2
アシカの親子……3
動物園グラフ……4・5
中国との動物交換……6・7
モウコレイヨウの入園まで……8・9
動物相談室……10
動物園ニュース……11

表紙の写真説明

“ニシズキンエボシドリ”

アフリカ大陸に分布する鳥で、その羽色のいろどりのみごとさは地味で目立たないホトトギスの仲間にはとてもみえません。



“アシカの親子”

6月15日に生まれたアシカの赤ちゃんは、スクスクと育ちました。今日はママと一緒に水泳を楽しんでいます。まだまだママのオッパイが欲しい赤ん坊ですが、水泳はママと同じ位上手になりました。

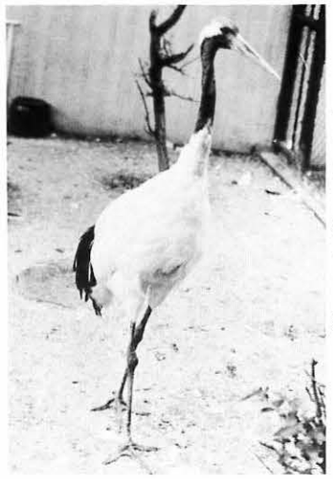
動物園グラフ

"日中親善"

動物大使の横顔

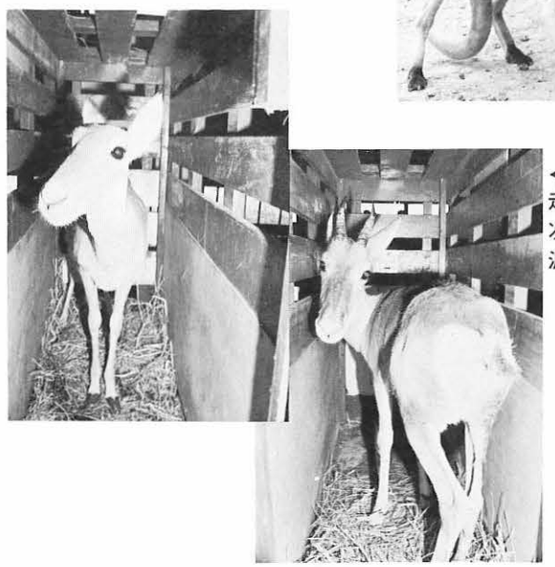
此度、中国との動物交換が成立しましたが、その重責をになった親善大使の横顔を御紹介しましょう。

北京動物園←→天王寺動物園



←
8月5日、遠路はるばる北京からやって来た花嫁のタンチョウヅル。
日本では特別天然記念物です。
〈1羽〉 北京→

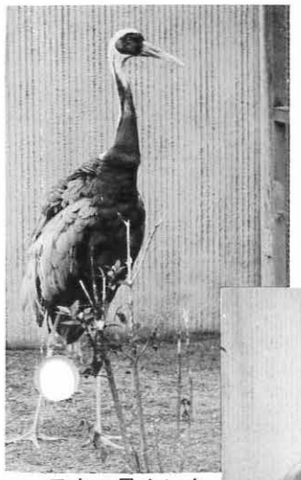
←
跳躍力は天下一品、中国との友好にホップ、ステッンジャンプ！アカカンガルーの三段とびで大きく前進。
〈1つがい〉 天王寺→



←
走る早さはチーターに次ぐといわれる日本初渡来のモウコガゼル。
〈1つがい〉 北京→

→
ものまねじょうずのルリコンゴウインコ。
中国語もしゃべるようになるでしょう。
〈2つがい〉 天王寺→

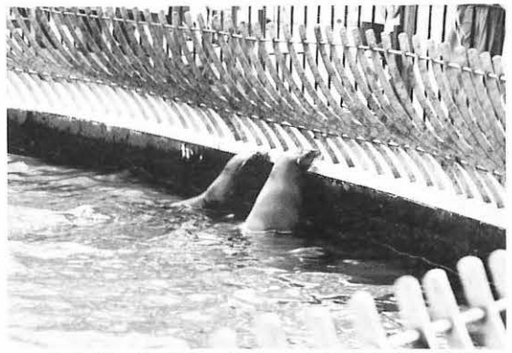
上海市西郊公園←→天王寺動物園



日本の暑さにも平気なフンボルトペンギン！中国でも暑さに負けず日中友好を推進してくれることでしょう。
↓〈2つがい〉天王寺→

←
日本では特別天然記念物のマナヅル、大変貴重な鳥です。
日中友好に大いにはばたいてくれることでしょう。
〈1つがい〉 上海→

↑中国でも数少いクロオオカミ、もちろん日本には初めて。
真黒で精かんなオオカミです。
〈1つがい〉 上海→



↑曲芸じょうずのアシカ！上海曲技団一行と同じ飛行機で上海へ。機内でいろいろな芸を覚えたことでしょう。
〈1つがい〉 天王寺→

7・8月の動物園日記

7／29. ジュズカケバトが1羽死亡しました。

30. 順調に育っていたハイイロカンガルーの赤ちゃん（オス）が袋の外に落ちて死亡していました。

8／2. トラが2頭（オス、メス）出産しました。又同じ日にライオンも1頭（メス）出産しました。

3. ヒョウが2頭出産しましたが、初めてのお産だったせいか押しつぶされて死亡してしまいました。

4. 一昨日出産した母トラが急死しました。原因は3頭目の胎児が子宮破裂を起して腹腔内に浸積し、急性腹膜炎を起したためのようです。残された2頭の赤ちゃんトラは同じ日に生まれた1頭の赤ちゃんライオンと共に人工哺育に切替えました。

5. シシオザルが1頭生まれました。

6. 北京からのタンチョウヅル1羽とモウコレイヨウ1つがいが大阪港に入港し、モウコレイヨウはすぐ神戸の動物検疫所に送られて30日の検疫を受けることになりました。

7. 昨日来たタンチョウヅルの寄贈式が行われ、ツル舎に展示して公開しました。

10. ブラックバックが1頭（オス）誕生しました。
リュウキュウキノボリトカゲ2頭の寄附がありました。

11. アグーチが2頭生まれました。
セキセイインコ8羽の寄附がありました。

12. 昨日生まれたばかりのマントヒヒの仔（オス）がオス親におもちゃにされて、全身打撲で死亡しました。

13. メガネカイマンが同居のものと斗争して死亡しました。
ホホジロエボシドリ2羽、アンデストキ2羽、コハクチョウ2羽、サカツラガン1羽が新しく入園しました。

17. フクロウが1羽死亡しました。

18. 6月18日に産卵以来、抱卵し続けていたキングペンギンの卵は残念ながら無精卵でした。

19. カツオドリの寄付がありました。

21. 上海へ贈られるフンボルトペンギン2つがいとアシカ1つがいの出発式が行われました。

22. キングペンギンが採食も悪く、元気がないため治療を始めました。
クロオオカミ1つがいとマナヅル1つがいが夜の8時半に伊丹に着き、すぐ動物園に運ばれて来ました。

24. つくしがもの寄付（1羽）がありました。

27. 上海からのクロオオカミとマナヅルの歓迎会が行われました。

中国との動物交換

今回、中国の北京動物園及び上海動物園（上海市西郊公園）との動物交換が実現しましたが、そのいきさつから成立までの過程を説明してみましょう。

☆北京動物園←→天王寺動物園

一昨年、福山大阪市助役が訪中した時、動物交換を申し入れたのをきっかけに、昨年5月、加藤前公園局長が日中友好関西訪中参観団長として訪中した際、当園の独身のタンチョウヅルに花嫁が欲しいことを申し入れたところ、とんとん拍子に話がまとまりました。北京からはメスのタンチョウ1羽、モウコレイヨウ1つがいが、当園からはアカカンガルー1つがい、ルリコンゴウインコ2つがいが贈られることになったわけです。

7月5日、大島大阪市長、宮北公園局長ら出席のもとにアカカンガルーとルリコンゴウインコの出発式が行われました。そして7月10日、大阪港より北

（出発式であいさつ中の大島市長）

京に向けて元気に出立して行きました。長い船旅道中のため、動物の健康がずい分気づかわれましたが、7月23日北京より無事到着の電報を受け取った時は、さすがにほっとしました。

ついで8月5日にタンチョウヅルとモウコレイヨウが大阪港に入港しました。タンチョウヅルだけが大阪港で降りるのを許可され、モウコレイヨウは神戸の動物検疫所にそのまま移されました。モウコレイヨウなど牛科の動物には口蹄疫という致命率が高

（輸送船内を消毒中）

く、しかも伝染力の強い伝染病があり、日本ではその発生はないのですが中国ではその汚染地域であるため、その病気の進入を阻止するために30日間拘束し検疫するわけです。戦後、中国からは初めての偶蹄獣の輸入だけに慎重に慎重をかさねています。なおこの30日間の検疫のために当園の獣医の樽本主査が派遣されて、一緒に泊りこんで世話をしています。9月上旬には動物園にお目見えの予定です。

タンチョウヅルは8月7日、輸送していただいた中国船の船長さんなど出席のもとに寄贈式が行われ、当園に無事に引き渡されました。当園にはメスに死

（歓迎会であいさつ中の李珍船長）

別したオスのタンチョウ1羽のみで、早速隣のケージに移された遠路からの花嫁に興味を示していました。まだ大きさに差があるため、一緒にするのにはもう少し期間をおくことになると思います。

☆上海動物園←→天王寺動物園

上海動物園といっても正式には上海市西郊公園というのですが、今年の4月に大島市長が上海市を訪問して大阪市と上海市両市の友好都市提携を結んだ際、友好交流の才1歩として今回の動物交換を行うことになったわけです。上海からはクロオオカミ、マナヅル各1つがいが、当園からはアシカ1つがい、フンボルトペンギン2つがいが贈られることに決まりました。

8月21日、当園でアシカとペンギンの出発式が大島市長、宮北公園局長ら出席のもとに盛大に行なわれました。翌22日、丁度中国博のために来日してい

（アシカとペンギンの出発式）

た上海曲技団一行を迎えに来た中国民航機で、クロオオカミ、マナヅル各1つがいが送られて来ましたので、その帰りの便で上海曲技団一行と共に当園からのアシカ1つがい、ペンギン2つがいを上海に送りました。又、この便で当園の中川園長と辰野飼育係主任が上海北京の動物園と友好を深めるために、同行しました。

8月22日夜、クロオオカミとマナヅルが当園に入りました。クロオオカミのオスは「大辛（タイシン）」2才、メスは「小寅（ショウイン）」1才と輸送檻に名前が付いており、いづれも全身真黒で精かんな眼をしています。このクロオオカミというのは100年程前にチベットの山岳で発見されたオオカミで、中国以外の動物園にはほとんどいないという珍しいものです。又、マナヅルも日

（伊丹に着いたところ）

本では特別天然記念物に指定されている貴重なツルです。

8月27日、上海市革命委員会の園林処（日本では公園局にあたる）の責任者である沈恒金氏、飼育担当の顧金根氏通訳の謝永松氏らが来園されて盛大な寄贈式を行い、ツル舎、中獣舎の前で大島市長、沈氏のテープカットの後一般公開されました。マナヅル、クロオオカミ共、上海では同居させてなかったのことなので、当分見合をさせた上で一緒にする予定です。

モウコレイヨウ、タンチョウヅル、クロオオカミ、マナヅル、全て健康で元気なだけに、日本の気候風土に早く慣れて1日も早く二世を誕生して欲しいものです。

（なきごえ編集部）

モウコレイヨウの入園まで

8月6日、真夏の太陽がギラギラ波間に光る大阪港外の検疫錨地に、中国船〝広水号〟が静かにイカリを降していた。広水号は、中国の天津新港から大阪へ雑貨を積んで来たという、5～6千トンの貨物船であった。

北京動物園から同船にのせて贈られてきたタンチョウとモウコレイヨウを受けとるために、飼育課長と私は、神戸の動物検疫所からの検疫官や通関業者らとランチで同船に接近した。船尾の、鮮やかな五星紅旗が印象的であった。タラップを上った私たちを船員たちは珍らしげにながめていたが、我々が動物の検疫のことで来たと知ると早速サロンに案内してくれた。すぐ冷たいジュースと、双猫というタバコを出してくれた。サロンには、大きなスローガンがかかげられ、毛主席の肖像画があり、やはり人民中国の船だなあーと感じ入った。船には、税関なども来ており、入港準備で船長も大忙しのようであった。船長は、デップリとした大柄な人で、人民服を着ていたので、この人が船長であると云われないと判らないくらいであった。きっと他の国の船だったら、はでな肩章に金モールの制帽をかぶっているに違いない。

検疫官らが船長から動物のことについて、質問をしている間も、私たちは、一刻も早く動物を見たいとあせっていた。天津新港から大阪港まで約5日の航海だという。この船は、何かの都合で1日入港が遅れているので、動物たちの被労があるのではないかと気がかりであった。しばらくして、やっと、前甲板につまれている動物たちと対面できた。ここは甲板といっても、雨覆いのある倉庫状のところであった。航海もおだやかだったとの船長の話もあり、安心をしていたのだが、見るまでは若干不安であった。タンチョウの檻と、カモシカの2つの檻からそれぞれの動物の顔が見えたとき、不安は一ぺんにけしとんでしまった。いずれも元気な様子でこちらを見ていたからです。

タンチョウは、去年ふ化した幼鳥らしく、まだ1人前の羽色になっていないようで、せいの高さもさして大きくなかった。もちろんトレードマークの頭の頂の赤い皮膜の部分もうすい色であった。私がおどろいたのは、檻をのぞき込んでも何もバタツクこともせず、大変おちついていたことであった。それだから、あんな狭い檻に何日も入れられていても、翼端や嘴をこすりつけることがなく無事ついたのだろう。ブリキの餌箱には、1つにはツブのままのトウモロコシと、他方には、飲水と一しょに、キスのような魚が数匹入れてあった。少し離れたところにモウコレイヨウの檻が2つ並んで置いてあった。モウコレイヨウは、当園にいるインド産のブラックバックと同じくらいの大きさであった。中国名で、黄羊と呼ぶようにおすもめすも全身が黄土色で、臀の周囲だけが白い毛でおおわれている。それにおすめすともものどに大きなふくらみがあるのが特徴だ。そして、おすにだけ7～8cmの角がある。これも外傷もなく元気そうであった。これまた、大変なれているのか私や検疫官などがのぞき込んでもバタバタすることなく安心した。

モウコレイヨウには餌として、野干草、干した柏の葉、それにトウモロコシの粉を主にした配合飼料をかたねりにしたものが与えられていた。

船は大阪港内に静かに動き出した。検疫官らが中心になって、動物噴霧器で、動物の置いてある甲板や周辺を徹底的に消毒していた。檻もまた消毒液の洗礼を受けた。動物の目の中に薬液が飛び込まないかとハラハラした。私は持参のカメラで、それらの様子を撮影した。あまり船内を写すと、船員にあやしまれてもと、変にこだわっていた。航海中の餌の残りと、檻の中の食べ残りは1つの袋にまとめて消毒し、帰りに、外洋に出てから海上で投キさせるようだ。消毒もすみ、書類上の手続きも終ったのか、

やっとモウコレイヨウの檻がウインチでつり上げられ、ハシケに積み込む作業が始まった。はじめの1つは、少し斜めにつり上げられたので、中でバタバタしてもう一度やりなおしだ。2つの檻が、無事ハシケに乗せられたところで、私もハシケに降りた。ハシケの船底は、かなり深く目がよく通らない。暑さでたおれないように、日覆いを檻にしてやった。タンチョウは、この間に、港湾局のタグボートに降され、陸揚げされて動物園に直送された。

さて、モウコレイヨウと私が乗ったハシケが、中国船を離れて、神戸の和田岬にある検疫場までの長い船たびに出発したのは、もう午後の3時をまわっていたろう。それから3時間余、トロトロと大阪湾をよこぎって、夕陽の落ちるころ、めざす検疫場の岩壁についた。さあ、これから30日間、この動物と寝起きを共にするのだ。覚悟は決めてきたものの、さすがに、長いなあーと気がおもかった。

戦後、中国から偶蹄獣が輸入されるのは、これが初めてということである。それは、中国には昔から牛などに猛烈な勢いで伝染する牛のペストや、口蹄疫というウィルス病の汚染地域とされて警戒されてきたからです。もしこの病気が日本に入れば、日本の牛や緬山羊などに甚大な被害が及ぶと思われるからです。それで、防疫上中国から偶蹄獣を輸入することは困難なのです。それで、今回も北京動物園からモウコレイヨウを贈られてくるということがきまったものの、農林省畜産局や、動物検疫所の元締めの横浜動物検疫所で許可がでるかどうか危惧していた。しかし、日中友好の贈りものというのもあり、いろんなきびしい防疫上の条件付で輸入許可が下りたのでした。

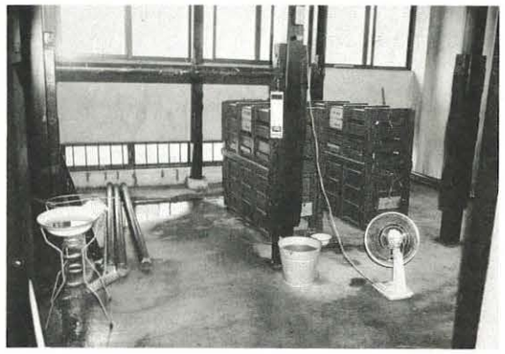
日本では、検疫の必要な野生動物はすべて名古屋港にある検疫場に入れることになっているのですが、今回は、大阪港に直行する中国船ということとなどから、それでは、神戸にある検疫所の特別隔離畜舎に入れなさいということになった。

この特別隔離畜舎は、広い検疫所の南の隅にあり、この1区画だけまたブロックベイで仕切られている。1棟をＡＢＣＤの4室に分けてあり、各室は牛馬だったら4～5頭入れられる広さがあった。各室には管理人室があり部屋やキッチンからも動物の様子が見れるようになっている。バス、トイレ付の1ＤＫ、で長期の検疫にもつけるようにしてある。モウコレイヨウを入れたＡ室には別に検査場（解剖場）と死体処理漕、糞などの集積場、室気浄化装置の機械室、排水の浄化漕となかなか万全の設備であった。

さて、先にも書いたとおり、外傷もなく、口の粘膜や蹄などに何ら変状もなく到着の日から、前もって運び込んでおいたペレットやふすま、それに牧草などをよく食べた。最初は船で見たとおり、ふすまと乾燥したペレットを少し水でねって与えたがやはり、そのままの状態の方がよく食べた。おすは牧草も好んで食べた。狭い檻の中でながく飼育していかねばならないので、あまりやりすぎてもいけない。動物も少しは気をまぎらわしてやる方がよいと思って、1日の餌を数回にも分けて与えることにした。しばらくすると私の顔を覚えて、餌をねだるようになり、檻の前から立ち去るときは、盛んに前足で床をかいたり、首をふったりしてゴトゴト音をたてた。おすは食べ残した牧草を檻の後にけり出すくせがあった。めすは、掃除のときなどは、おしり側からすると、極端に興奮して、檻の天井にゴツゴツ頭を打ちつけてしまう。これは危険だとその後は前からやるようにした。

真夏の日中は、室温が33℃にもなり、夜も30℃を下らないなど大変暑い、レイヨウもフー、フー、しているのが、かわいそうなくらい。早く広い放飼場で伸び伸び走りたいだろうなあー。

それから書き忘れていたのですが、このモウコレイヨウはかなりの跳躍力があり、検疫室で放すとはねて頭を打ったり危険なため、中国からの輸送檻のまゝ置くことにしたのでよけいに、むし暑かったに違いない。持参の扇風機を1日中回していたがこんなくらいではこたえない。



タンチョウにしてもこのモウコレイヨウにしても大変おとなしく飼いならされていて、中国の動物園の飼育技術の優秀さが伺われた。

毎日1回、検疫官が視察にきて動物の様子や調子を聞いていった。いくらなれているといっても採血したり、体温を計らすこともできなかったが、採食の良好なことや、可視粘膜、蹄の状態からして、先の伝染病に罹っていないと判定された。

結局、モーコレイヨウにとっても、私にとっても永い永い30日間であった。検疫期間がすぎてカモシカ園に入れられたのは、朝夕に涼風のたつ9月6日のことであった。

こうして、中国の人々の御好意と、日本のいろんな方々の御協力があって、日本でたゞ1番の珍らしいカモシカが入園したのです。この若いカモシカ夫婦、きっとすぐに、日本の気候にもなじんで、赤ちゃんを産んでくれるでしょう。

（動物園主査樽本勲）

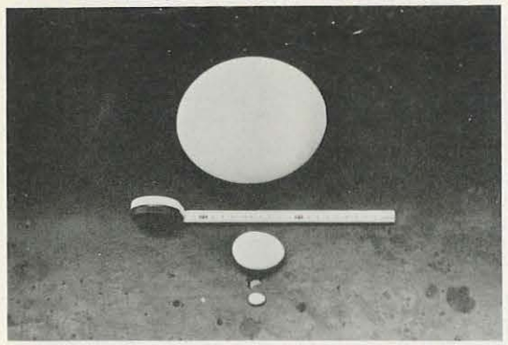
動物相談室(7)

今回は鳥類に関する問合せの中で、病気や飼育法以外の一般的な質問を取りあげてみました。

1．世界で一番大きい鳥は又一番大きい卵は？

現在一番大きい鳥はダチョウで、又その卵も鳥の中で最大のものです。ただ400年程前にニュージーランドにモアというダチョウと近縁の鳥が居り、これが高さ3.6mほどに達し世界最大だったようです。

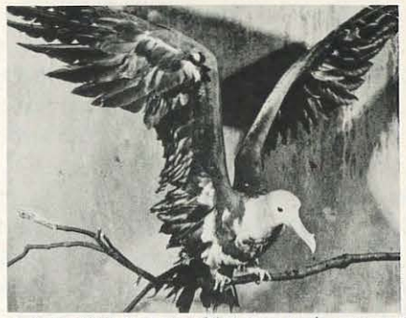
ダチョウの高さは2.3～2.5m位ですから、かなり大きな鳥だったようです。卵の方は、やはり現在ほろんでしまったロック鳥という鳥の卵が最大で33cm×23cm以上あったとのことで、現在のダチョウの卵とは比べものにならない大きさです。ちなみに本園で産卵したダチョウの卵の大きさは15.5cm×12.5cm（平均）位です。一応ダチョウとニワトリとジュウシマツの卵を写真で比較してみて下さい。



参考までに、世界で一番小さい鳥はハチドリの類で体重2gに満たない小さなものです。一番小さい卵もハチドリの卵のようで1.2cm×0.8cm位の大きさです。

2．一番早く飛べる鳥は？

この質問には解答者も一番頭を悩ます。実際に測定した例が少いうえに、鳥の個体差や測定方法によってかなり違いが出るようです。従って鳥のスピードに関する記録の中でも、その速度はまちまちです。ある本ではツバメの時速が300kmと書いてあるかと思えば、別の本では時速50kmというふうに全くちがうのです。一応当園では飼育ハンドブックを参考にしていますので、そこから引用させてもらいますと、グンカンドリが時速418kmで最高とのことです。この鳥は南太平洋で繁殖する海鳥で、日本にも迷鳥として時々やって来ます。当園にも昭和45年8月に台風で運ばれて来たのを保護したことがありま



したが、3年7ケ月の飼育中その飛行姿にはついぞお目にかかりませんでした。1日中岩の上にハク製みたいに立っている姿は、とてもスピード記録保持者に見えませんでした。

3．一番長生きする鳥は？

これもむずかしい問題です。生まれてから死ぬまで飼育管理下にあればその生存年数も分るのですが、動物園外の鳥であればその寿命はなかなか定めにくいものです。一般にオオム・インコ類が長寿のようで100～120年は生きるようです。ついでワシ、タカ、コンドルなどの猛禽類、ガン、カモの類、ツルの類、ダチョウ、ペリカン、サギなどが比較的長生きする鳥類のようです。スズメも20～30年は生きるようです。動物園の飼育下の記録のうち現存するものでは、京都動物園のキバタンが48年という飼育年数を誇っています。当園一の長寿動物はエミューで38年の飼育年数があります。その他、上野動物園には飼育年数32年のマナヅル、宝塚動物園には同じく32年のオオワシなどが居ます。これら長寿動物の管理は非常に気をつかうものですが、健康を維持してもっともっと長生きして欲しいものです。

＊動物相談の受付は平日3時～4時、電話番号は（06）771－8402です。　（宮下　実）

動物園ニュース

☆中国との動物交換実現！

日本で初めてのモウコレイヨウ、クロオオカミが中国・北京動物園、上海動物園からついにやって来ました。詳しくは本号4～9ページの「動物園グラフ」、「中国との動物交換」、「モウコレイヨウの入園まで」を御参照下さい。

☆トラとライオンの人工哺育

8月2日にトラ2頭とライオン1頭が誕生しましたが、トラの方は母トラの急性腹膜炎による急死、ライオンの方は母ライオンの哺育能力欠除のため、8月4日から3頭一緒に人工哺育をしています。

☆まだ続くカモシカ園の出産ラッシュ!!

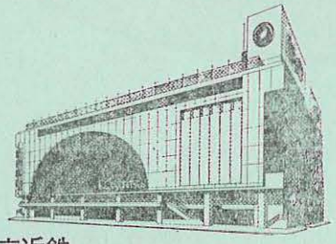
8月6日、8月10日とブラックバックが各1頭ずつ誕生しました。今年のカモシカ園はエゾシカ、ハナシカ各4頭ずつを始め、オリックス1頭、スプリングボック2頭が誕生しており、ベビーラッシュのまっ際中です。

☆アグーチ誕生

8月11日にアグーチが2頭誕生しました。昭和47

夢が広がるショッピング……
近鉄がお届けします

上本町近鉄 TEL.(06)779-1231
アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111
奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111



東京近鉄

近鉄

日本近海にも飛来しますが、めったにその姿は見られるものではないだけにまさに珍鳥です。

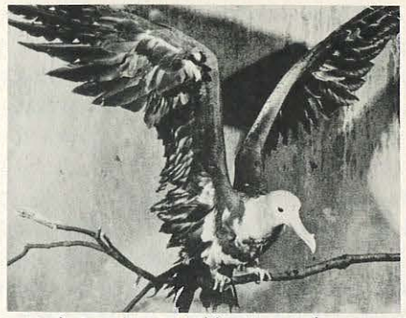
動物相談室(7)

今回は鳥類に関する問合せの中で、病気や飼育法以外の一般的な質問を取りあげてみました。

1．世界で一番大きい鳥は又一番大きい卵は？

現在一番大きい鳥はダチョウで、又その卵も鳥の中で最大のものです。ただ400年程前にニュージーランドにモアというダチョウと近縁の鳥が居り、これが高さ3.6ｍほどに達し世界最大だったようです。

ダチョウの高さは2.3～2.5ｍ位ですから、かなり大きな鳥だったようです。卵の方は、やはり現在ほろんでしまったロック鳥という鳥の卵が最大で33cm×23cm以上あったとのことで、現在のダチョウの卵とは比べものにならない大きさです。ちなみに本す。この鳥は南太平洋で繁殖する海鳥で、日本にも迷鳥として時々やって来ます。当園にも昭和45年8月に台風で運ばれて来たのを保護したことがありました。



したが、3年7ケ月の飼育中その飛行姿にはついぞお目にかかりませんでした。1日中岩の上にハク製みたいに立っている姿は、とてもスピード記録保持者に見えませんでした。

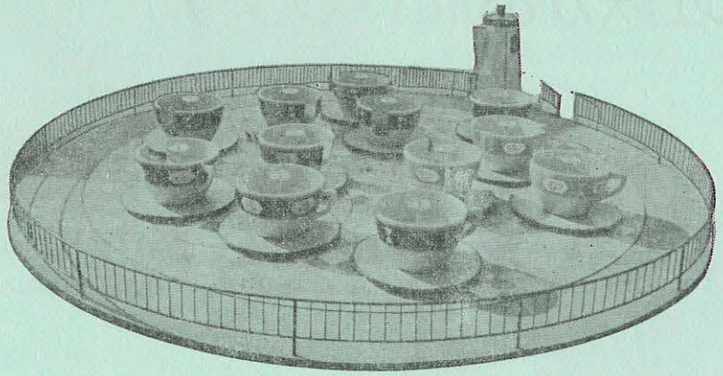
3．一番長生きする鳥は？

長生きして欲しいものです。

＊動物相談の受付は平日3時～4時、電話番号は(06) 771－8402です。

（宮下　実）

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社 工場　大阪市西区南堀江通3－40

電話 大阪(06)541－3112・3938番

動物園ニュース

☆中国との動物交換実現！

日本で初めてのモウコレイヨウ、クロオオカミが中国・北京動物園、上海動物園からついにやって来ました。詳しくは本号4～9ページの「動物園グラフ」、「中国との動物交換」、「モウコレイヨウの入園まで」を御参照下さい。

☆トラとライオンの人工哺育

8月2日にトラ2頭とライオン1頭が誕生しましたが、トラの方は母トラの急性腹膜炎による急死、ライオンの方は母ライオンの哺育能力欠除のため、8月4日から3頭一緒に人工哺育をしています。

☆若キジ巣立つ！

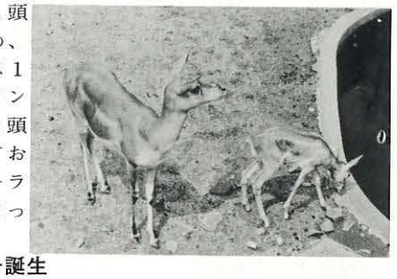
今年もたくさんのキジ類がふ化し、7月末に育雛室から外の収容室に移されました。8月現在で55羽おり、内わけはギンイロキンケイ12羽、キンケイ9羽、クジャク6羽、ギンケイ4羽、サンケイ3羽、ニホンキジ3羽、トウテンコウ3羽などです。

☆シシオザル誕生！

8月5日、国際保護動物のシシオザルが1頭（オス）誕生しました。母親はこれが4度目の出産で母子共順調です。現在インド政府がシシオザルの輸出を禁止しているため、非常に貴重な動物になりつつあります。

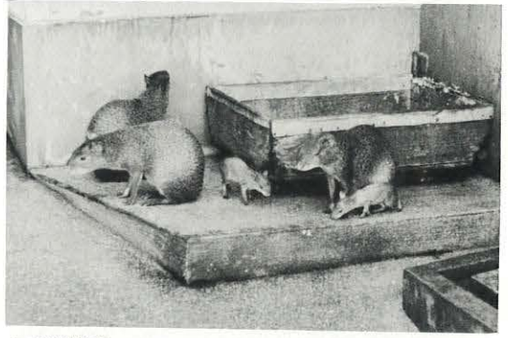
☆まだ続くカモシカ園の出産ラッシュ!!

8月6日、8月10日とブラックバックが各1頭ずつ誕生しました。今年のカモシカ園はエゾシカ、ハナシカ各4頭ずつを始め、オリックス1頭、スプリングボック2頭が誕生しており、ベビーラッシュのまっ際中です。



☆アグーチ誕生

8月11日にアグーチが2頭誕生しました。昭和47年に3頭誕生して以来2年ぶりの誕生だけに喜びもひとしおです。



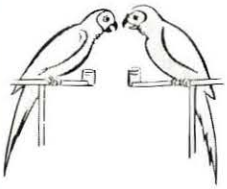
☆新着動物

8月13日に4種類の鳥類が新しく入りました。珍鳥はホオジロエボシドリ2羽とアンデストキ2羽で、共に元気です。その他コハクチョウ2羽、サカツラガン1羽が水禽放養舎に放たれました。

☆珍鳥の寄付

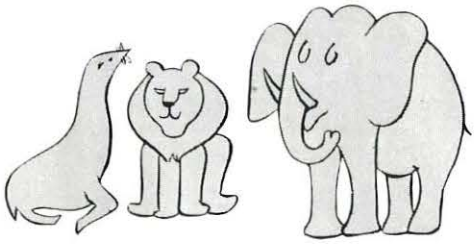
8月19日に大阪港に入港した鉱石運搬船オ8金生丸から、海鳥が船に飛来して保護しているので寄付したいという申し出があり、引き取りに出かけたところ主に熱帯地方に分布するカツオドリでした。日本近海にも飛来しますが、めったにその姿は見られるものではないだけにまさに珍鳥です。

なきごえ　昭和49年9月15日発行（毎月1回15日発行）第10巻第9号（通巻110号）
編　集／大阪市天王寺動物園
発行人／大阪市天王寺動物園協会　和田辰巳
印刷所／株式会社　松村善進堂
〒543 大阪市天王寺区玉水町2
電話　大阪（06）771－0201
振替口座　大阪　37823
定価100円（送料共）1年継続（12部）1,100円（送料共）



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



・医学実験用動物
・愛玩犬、猫直輸入
・宣伝用、テレビ用、貸動物
・教材用鳥獣剥製販売
・原色世界雑類図鑑（34種1枚もの）要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社　**吉　川　商　会**

本　社　神戸市生田区中山手通三丁目二八番地　電話（078）221-8195・221-1517
飼育場　神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地　電話（078）241-3494

自然の
おいしさ

全糖

●合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。

雪印ヨグール

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

各140c.c.＝70円

編集委員　〈小谷　潔・林　邦彦・大野尊信・米田敏光・樽本　勲・田上　勝
中川道朗・農本武志・深井和美・東　政宏・宮下　実〉